

第12回 紅の実句会 (二〇二一年一〇月五日) 兼題 「紅」

16. あの時の未来と違ふ衣被 (飄々子) 14点

◎雀：夢のような未来を思い描いていた日々は遠く過ぎ去り、平凡だが平和な日常がある。そんな情景が衣被から連想されます。別の未来への憧憬もあるかもしれません。

15. 蕎麦の花茎くれなゐに風とほす (イネ) 12点

◎雀：蕎麦の花のおやかさが思われます。茎の色がひとときわ紅く見えて来るよう。

48. 過ぎし日や菜黄の実のその紅の (ようこ) 4点

◎雀：菜黄の実は郷愁を誘う。取り戻すことのできない日々を宝石のような紅色の実に重ねて懐かしんでいる。言いさしたような下五に思いが滲んでいます。

17. 秋灯はじめて待つてゐてくれた (指月) 9点

◎潤一：初めて晩ご飯をとにもできる喜びが現れている。

106. 眠たさは壇に挿したる穂草より (としこ) 8点

◎さや：穂草のかすかな揺れにまぶたも重くなりそうです。穏やかさに惹かれました。

102. 頬紅をさす少年や村祭 (冬芽) 7点

◎雀：村祭なら芝居などでこういう場面もあると思いますが、ちよつとドキッとさせられました。

135. 紅殻の家並をあとに去ぬ燕 (澤) 6点

◎紀子(みちこ)：最近紅殻の家はあまり見ませんが、古い家のたたずまいが感じられます。燕が帰ったあとの一抹の淋しさ。脈々と続く人の営みを思いました。

84. 人形を逆さに抱けば爪紅 (節子) 4点

◎臺子：子どもの頃の記憶が蘇る。逆さにされたお人形の瞳には、爪紅はお友達のように映っていたのかも知れません。

85. 人妻に襟直されて紅葉狩 (かける) 4点

◎雀：中七までの散文的表現に軽さがありますが、やはりドキツとさせます。紅葉狩が雅やか。

142. 胸元に紅のひよけ鴉渡る (くるみ) 4点

◎智子：紅の措辞が秋という季節も相俟って、小鳥ゆえの哀切さを極立たせていると思います。

118. 結び直す髪や野分の匂いして (千津子) 1点

◎千代志：嵐の予兆の空気感と、髪の毛の質感、量感が溶け合う瞬間。

57. 桜蓼あひ会へる日を「ころに」 (とちおとめ) 5点

◎しずか：「桜蓼」と「あひ会へる」の言葉のひびきがやさしいと思います。

81. 豆腐屋の喇叭尾をひき桐一葉 (山口眞登美) 4点

◎野いちご：子供のころは、ご近所もみんな和気あいあいと楽しかった

143. 道草の顔して蜻蛉寄ってくる (裕章) 3点

◎飄々子：蜻蛉のなれなれしどアップの貌が思いうかぶ。蜻蛉も作者も道草仲間？